

## 第7回江別市行政審議会 会議録（要点筆記）

日 時：平成25年8月12日（月） 18:30～20:30

場 所：江別市民会館 21号室

出席委員：押谷委員、河西委員、佐藤委員、安孫子委員、藤本委員、町村委員、蛭名委員、  
白鳥委員、湯浅委員、岸本委員、草野委員、高儀委員 計12名（4名欠席）

事務局：鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長、千葉課長（政策調整課）、西田参事（総合計画担当）、村田主査（総合計画担当）、長谷川主任（総合計画担当）

### ■開会

### ■議事

#### （1）パブリックコメントの結果について

質疑・意見等なし

#### （2）第5回、第6回行政審議会（部会）の審議結果について

##### <第1部会>

##### ○ 押谷部会長

第1部会では、「協働」を中心に議論していますが、誰と誰がどのような形で「協働」して、どういうアウトプットを求めていくのか、あるいはアウトカムがどのような形になるのかということを議論しました。その中で、まず「協働」という言葉について、果たしてどこまで市民に浸透しているのかという問題がありましたので、この総合計画の中で「協働」という言葉の定義をしっかりと伝えていく必要があるという意見にまとまっています。

誰がどのような形で「協働」するのかということについては、1つには「市民・自治会・市民活動団体・企業・大学・行政など」と表現されている横の繋がりによる「協働」があります。それと同時に、これからの少子高齢化社会の中で、高齢者の方々の活動と子育て世代をどのような形で繋げていくかといったような、子どもから高齢者までの世代間の縦の「協働」ということも必要ではないかという議論があり、横の「協働」と縦の「協働」のそれぞれにしっかりと取り組んでいくべきであるという意見にまとまりました。

また、現在の法律上では65歳以上の方々を高齢者と定義していますが、65歳でも元気で活動できる方々が大勢いますので、そのような方々が働いたり、まちづくりに参加するなどして活躍していただければよいということが必要ではないかという意見もありま

した。

それから、「支援」という言葉について、従来の総合計画でもそうでしたが、行政の目線で誰をどのように支援していくかという記載になっている部分があります。ただ、「協働」ということを前提とした場合には、行政の立場からの「支援」という言葉はできるだけ慎重に使っていただきたいという意見にまとまりました。

戦略4についても、シティプロモートとして一体何をするのかということに関して議論がありました。シティプロモートとして打ち出すものを、具体的にこの総合計画の中で明確にするというよりは、今回まとめられている戦略1から戦略3をしっかりと推進していくために、江別の魅力を市内外にアピールしていくことが、今回の計画でのシティプロモートではないかという議論がありました。

そして、これだけの人口規模で市内に4つの大学と1つの短期大学がありますので、「協働」を進めていくにあたっては、大学に重要な役割を持たせていただきたいと思えます。えべつ未来市民会議の中でもたくさんのご意見が出されており、「協働」で地域課題の解決策を探していかなければならないということだと思えますので、そのことを強調していきたいと考えています。

## <第2部会>

### ○ 河西部会長

まず、まちづくり政策に関して、大枠の構造については特に異論はありませんでしたが、個別にはいくつかご意見をいただいた部分があります。

第1に、02-01-(1)「農産物の高付加価値化」の中で、「高付加価値の商品化をめざします」とありますが、単なる商品化だけの話ではなくて、商品化してそれを販売して消費者に届けるまでを含めて考えなければ、ブランド化できないのではないかとご意見がありました。これに関しては、えべつ未来戦略で戦略2として取り上げられていますので、そちらが中心になるかとは思いますが、まちづくり政策に対してもそのようなご意見がありました。

また、今回の総合計画のまちづくり政策の中で目新しい項目として、観光振興の施策があります。観光振興に関しては、これまでの総合計画ではあまり強調されていなかった分野ですので、唐突感があるというご意見がありました。そこで、今まで江別市が進めてきた取組の中では物産ということが非常に重要でしたので、それと関連付けてはどうかというご意見がありました。江別市での観光を考えたときに、もちろん素晴らしい自然資源や歴史的資源といった地域資源もありますが、江別で採れる1次産品やそれらを加工したスイーツなどといった物産も、一つの大きな観光の目玉になり得るのではないかとご意見がありました。江別の食材を使いながら様々な物産をつくっていくということも観光振興の中に盛り込んではどうかというご意見がありました。それと、江別ブランドというどちらかという物産が中心でしたが、江別ならではの観光ということで、観光

面においてのブランドの確立ということも考えてはどうかというご意見もありました。

まちづくり政策07「生涯学習・文化」についてもご意見がありました。生涯学習・文化というのは非常に重要な分野ですが、江別にもせっかく素晴らしい歴史や文化があるのだから、それらをもっと市民に知ってもらおう努力が必要ではないか。えべつ未来戦略の戦略4のシティプロモートなどで、もう少しそこを強調してはどうかというご意見がありました。

えべつ未来戦略については、大枠の構造に関してもご意見がありました。第1部会からも意見があった部分ですが、戦略プロジェクト2Aと2Bが重複しているように見えるというご意見でした。戦略プロジェクト2Aは、市内の産業や事業者間の連携に大学なども関わっていくというような内容で、2Bは農業を基軸にした農商工連携を中心とした内容で、どちらも連携に関する内容となっているために重複感があることから、どのように整理すべきか議論しました。これに関しては、戦略プロジェクトの内容を説明する文章の表現を工夫することで、2つの戦略プロジェクトの差異を際立たせて、それぞれの意図をより理解しやすい内容にしてはどうかという意見にまとまりました。

市内の事業者同士の連携に関して、新しい融資制度も出来つつあるので、そういったものを活用して連携を推進してはどうかという、より具体的なご意見も出ました。

また、推進プログラムの中に、新しい企業や工場等を誘致するという内容がありますが、既存の市内の企業の活性化も重要であることから、そのような視点も盛り込むべきではないかというご意見がありました。

それと、第1部会の報告でもありましたが、元気な高齢者の方々に新たに事業を展開するなどして活躍してもらえないかというご意見もありました。また、市内に学生の雇用の場が足りないことから、企業等の誘致によって雇用を増やしていくべきというご意見もありました。そういったことも含めて、新しいビジネスを創出する、いわゆる起業等の支援についても盛り込んではどうかというご意見がありました。

江別市内の既存の事業者の振興に関しては、戦略プロジェクト2Aの中で主に謳われていますが、江別市内の企業の大半は中小企業ですので、その中小企業の振興に関する文言をもっと入れられないかというご意見もありました。

雇用に関しても、先ほど述べたように高齢者や若者といった、より幅広い世代の人たちの雇用が創出できるように、「働きたい人が働ける」という文言をより具体的に説明した方が分かりやすいというご意見がありました。

戦略4のシティプロモートに関して、企業同士がお互いの情報を発信し、共有して新たな事業展開をするということが謳われていますが、このことを戦略4の中で謳うべきなのか、あるいは戦略2の中で取り扱うべきかという議論がありました。結論としては、企業間の情報交流と情報共有に関しては、戦略プロジェクト2A①のあたりに盛り込んで整理した方が分かりやすいのではないかという意見にまとまりました。

<第3部会> (隼田部会長欠席のため、事務局より報告)

## ○ 事務局

第3部会での審議の中でいただいた主なご意見について、ご報告させていただきます。

隼田部会長とは、先週木曜日にお会いして、部会長の想いも聴いてありますので、併せてご報告いたします。

まず、本体素案に関する内容についてですが、進行管理に関して、評価であるチェックや改善であるアクションは、早いに越したことがないので、1年の中で随時チェックとアクションを行ってもらいたいというご意見がありました。

まちづくり政策について、2点ほどご意見がありました。1点目としては、政策03「福祉・保健・医療」の中の「03-03 障がい者福祉の充実」に関して、市で高等養護学校の誘致活動を進めていることもあるため、障がいのある方の就労に関して、きちんと表現しておくことが必要ではないか。本体素案の26ページ「03-03 障がい者福祉の充実」の中で「就労への支援」に関して、より具体的に表現していただき、教育、福祉、労働の関係機関などとの連携の仕組みを確立して、福祉的就労への支援の充実に努めるとともに、障がいのある方が、一人ひとり指導を受け、一般企業への就労に繋がるような位置付けにしてはどうかというご意見でした。そして、障がいのある方々が、働くことを通じて社会参加したり、自己実現したりできるとよいのではないかとご意見でした。また、「(4) 日中活動への支援」についても、地域で安心して生活できる交流の場を確保し、今後もボランティアを育成して、障がいのある方々が参加しやすい地域交流の仕組みを確立し、支援の充実に努めるとご意見いただきました。

2点目としては、政策「05 都市基盤」の中の「05-02 交通環境の充実」に関して、公共交通の利便性の向上は、バスの本数を増やすということではなく、バスの接続をよくすると、格段に利便性が向上する可能性がある。公共交通の「再構築」は、乗り継ぎの接続など、色々な面でそのとおりだとは思いますが、「活性化」という表現は、限りなく不透明だと思うので、「最適化」くらいの言葉で、文言を工夫していただきたいというご意見がありました。また、今後の取組に関するご意見として、公共交通については、バス会社相互の関係もあると思うので、役割分担など、何らかの工夫ができればよいと思う。要は、利用の仕組みをどう「活性化」させるかであり、利用者のニーズに合わせて、駅を中心から離れたところは、行政や企業、団体が有するバスなどを利活用することも検討してはどうかというご意見でした。

続きまして、えべつ未来戦略に関する内容として、まず戦略3についての主なご意見を5点ほど申し上げます。1点目として、今後の取組に関するご意見として、13ページの「戦略の方向性」の文章の4行目に、「選ばれるまちづくりが必要です」とありますが、学校教育の中で「食」や「自然」などの江別の特性についてもPRできればよいのではないかと。他の自治体と違う特徴を明らかにしていけないと、差別化を図れないと思うので、より積極的にアピールできるポイントを個別計画等で検討していただきたいというご意見でした。

2点目として、今後の取組に関するご意見として、指標の「3 A-3 子どもを産み育てたいと考えて転入してきた子育て世代の世帯数」の部分で、1つの設問で決めるのではなく、複数の設問を設定して、トータルで指標を把握するとよいのではないか。指標の設定にあたって、転入時のアンケートを実施するのであれば、情報を事前にたくさん発信した上で、このようなアンケートを実施したらよいのではないではないか。また、転入時のアンケートは、事前の情報が効いてくる部分だと思うので、江別市に関して簡単にまとめたものが、アンケートを実施する窓口にあると、江別市に関する情報の復習になってよいのではないかというご意見がありました。

3点目として、素案の表現に関するご意見として、戦略プロジェクト3 Aの推進プログラム①が「産み育てる」というタイトルになっているので、主な内容欄を、現在進めている子どもを産み育てるための支援策と併せて、一体的に進めていくというような表現を検討いただきたいというご意見がありました。

4点目として、素案の表現と今後の取組に関するご意見として、戦略プロジェクト3 Bの「コンパクトなまちづくり」という言葉だけが独り歩きし、現実とかけ離れるのではないか、あるいは「えべつ版コンパクト」のニュアスがなかなか伝わらないのではないかと危惧するというご意見でした。駅周辺以外の地区のことも十分考慮するという文言が入っているが、これから10年間でこれをどう具体化していくかが重要である。この点を担保して、これからの施策展開に取り組んでいただきたいというご意見でした。隼田部会長からは、今の江別市はコンパクトなまちとは言えないので、情報発信と実際の施策展開の両輪をうまく回していくことで、市外の人から選んでもらえるようなまちになるのではないか。コンパクトなまちづくりをしていくには、行政だけではなく、市民や民間企業の動きが重要であるというご意見をいただいています。

5点目として、戦略プロジェクト3 Bにある公共交通について、総合計画に謳ったことが実現できる手立てを早急に検討し、計画ができると同時に、大筋の対策ぐらひは打ち立てられなければ、計画書だけが独り歩きすることになってしまう。記載できるものについてはある程度「見える化」するなど、何らかの形で市の意思表示を具体的に示すよう努めていただきたいというご意見がありました。

次に、戦略4についての主なご意見を5点ほど申し上げます。1点目として、戦略プロジェクト4 Aから想定される取組として、「住んでもらうため」、「来てもらうため」のイメージづくりのために、江別市の自然景観、農産物、食品などの情報をコンパクトにまとめて、視覚に訴えて目を引くような新たな資料を大量に作成し、市内の各団体に配布して、市民一人ひとりが広報マンになっていくというようなことを実施してはどうかというご意見です。

2点目として、江別市のブランディングを総合的に一体的に行うというところが、今の江別市で欠けている状況であるので、江別市と企業などの間でPRを共同で行う組織のようなものをつくるなど、行政が主体となるのか、あるいは行政以外が主体となるのか、情報発信の主体の組み合わせを上手く考えられるような仕組みづくりについて、何

らかの形で総合計画の中で明記していただきたいというご意見でした。また、情報発信に関しては、行政だけではなく、商工会議所や観光協会、不動産業界など、色々な団体が手を組んだ企画を、市外で実施するとよいのではないかと。どの情報に人が飛びついてくるかは分からないので、色々な情報を組みあわせて様々な主体が「協働」で実施すべきではないかというご意見がありました。

3点目として、戦略プロジェクト4 Aにある「関係するまちづくり政策」の欄に「09-02 透明性の高い市政の推進」とあるが、この政策の取組は市民に対する内容だけであることから、市外の人に「住んでもらうため」、「来てもらうため」のイメージづくりというところをアピールするために、審議会で提案された取組などの意見をどのように盛り込めば良いかを検討いただきたい。そして、今後の取組として、個別計画に比べて馴染みの薄い総合計画なので、情報をどのように伝えていくかという部分が重要であり、個別計画との連動性を持たせるためにも、具体的で身近な話題などを題材に、小さな取組でもよいから、市内外にどのような情報を伝えるかという工夫を、継続的にシステム化して行っていただきたいというご意見がありました。例えば、広報誌などで、身近な事例を小出しにして、総合計画の戦略に位置付けられているということをこまめに周知すると、大きな総合計画が、どのように組み立てられているか、あるいはどのように生活と密着しているかというイメージが伝わるのではないかとご意見でした。

4点目として、今後の取組として、転入してきた子育て世代の方に、市の子育て支援事業に参加した人たちの意見や取組などを書いた具体的な資料を渡すと、市外に口コミ等で伝わるのではないかと。転入して来られる方は、自分の住んでいたまちとの比較で、「新鮮な視点」を持っているので、その視点を大事にすることで、市政にとって大切なことを聴くことができ、また、個別計画の中にも追加できるものがあるのではないかと。できるだけ形にこだわらないで、ざっくばらんに色々なことを実施していただきたいというご意見がありました。

5点目として、年齢層によって情報を受け取る媒体が異なるため、ソーシャル・ネットワーキング・サービスなど、色々なメディアをどう活用するかを戦略的に考え、今後の江別市を支える10代～30代という若い世代にも特化した対応が必要ではないかとご意見がありました。

全体を通したまとめとして、隼田部会長からお伺いした内容をお伝えします。総合計画は個別計画と違って、方向性だけを決め、個別具体的な事業計画は、これから考えていくこととなるため、広く解釈できるような文言になっており、どうしても具体の部分がぼやけてしまっている。どのように取り組んでほしいか、あるいはどのように取り組んでいくのかという意思表示を何らかの形で答申に入れる必要がある。特に、人のつながりという部分で、まちづくりに関心のある人も無い人も当事者になれるような、自然に当事者に引き込むような枠組みが必要であり、その枠組みをつくるべきであるという内容の記載についてご検討いただきたい。

今回のパブリックコメントの内容は、現実的な話ばかりであり、誰もが自分の体験に

近いものがないと興味を示さないのではないか。どこの社会や組織でも、興味のある人は参加し、まったく興味を持たない人は参加しないものである。パブリックコメントの結果や将来都市像の募集結果をみると、市民が行政のことを見ていない結果でもあると感じる。そうであるならば、行政だけが頑張るのではなく、市民が当事者になるための「協働の仕組みづくり」が必要であり、情報発信や施策展開でまちづくりに引き込んで、「当事者化」するような枠組みをつくる必要がある。

えべつ未来市民会議のときから感じていることとして、市民にどう興味を持たせるかが大事である。総合計画であるので10年後の大きな方向性のみを示すのは分かるが、細かい事業に繋がるぎりぎりのラインで表現を工夫して触れるべきではないか。今回の戦略を、誤解を生まないような表現で、どう個別計画と繋げていくか。今回部会として担当した戦略3は、まちづくりの上で重要な内容であるが、同時に、それを実現するために戦略4の情報発信が大変重要な役目を担っている。

「コンパクトなまちづくり」を成功させるためには、子どもを産み育てるための支援策と一体的に進めていく必要があり、「誰もが住みやすいまち」という情報提供が大事で、官民一体で仕掛けづくりを行うことが必要であるけれども、なかなか官民一体で実施とはならないのが現実であり、行政からのアプローチが重要となってくる。例えば、富良野市は、長い時間をかけてまちをブランド化してきた。ブランド化のためには、時間はかかるかもしれないが、住みやすいまち、子どもを産み育てやすいまちとして、江別市をブランディングする上で、どう情報を発信していくかが、カギとなる。札幌市では、高齢化が深刻化している地区と子どもがたくさん増えている地区の二極化が起こっている。教育環境の充実に関してブランド化されている地区では、子どもたちが増えており、ブランド化されている地区と、そうではない地区との間で大きな差が出ている。近隣市の江別市は、この札幌のブランド化された地区と戦わなければならない状況であると思う。

「協働」は、大都市ではなかなか実践しづらいけれども、人口12万都市の江別であれば可能性は大きい。「協働」は、皆が協力して何かをやるというメリットの一方で、線引きをしてしまうことがある。「協働」は、縦糸と横糸が様々に織りなすものとして存在すべきものであって、1+1が、決して「2」とはならないものである。市民の中から、草の根から上がってきたものを、総合計画にぶら下がる施策にどう結び付けていくか。補助金にしても、これまでのようなやり方ではなくて、もっと自由度の高いものがあるのもよいのではないか。「協働」をもっとしやすくするための枠組みをつくる必要があるのではないかとのことでした。

## <他の部会への質疑・意見>

質疑・意見等なし

### (3) 行政審議会 答申書(案)について

○ 佐藤会長

まず、最初の鑑の文章について何かご意見ありますか。

○ 押谷委員

昨年開催したえべつ未来市民会議を受けて、今回の行政審議会でも審議していると考えています。えべつ未来市民会議では、具体的な提案や要望が数多く出されていきましたので、それらを受けて行政審議会でも審議しているということについても、一言入れていただけるとよいのではないかと思います。

○ 佐藤会長

下から3行目にえべつ未来市民会議について記載されていますが、約1年にわたって様々な議論が行われ、貴重なご意見をいただきましたので、是非そういったことを汲み取っていただき、鑑の文章に加えていただきたいと思います。

○ 河西委員

えべつ未来市民会議で議論された様々なご意見が、総合計画の中に位置付けられて、実際に文章として表現されると、それらの意見が全く反映されていないのではないかという感想を持つ市民会議の委員の方もいらっしゃるかと思います。「提言内容を真摯に受け止め」、「関連する個別計画等と連携を図りながら」と記載されていますが、もう一つ、そういった意見を市民の方々から吸い上げる仕組みを導入するというような表現があってもよいのではないかと思います。総合計画に関してはこれで良いと思いますが、そういった市民の様々な意見をきちんと実際の個別計画の中に反映できる仕組みの導入を担保できる表現があってもよいのではないのでしょうか。

○ 佐藤会長

隼田部会長からの第3部会の報告でも、そのような意見があったと思いますので、事務局の方で文言を追加するようにお願いします。

○ 湯浅委員

個別具体的な話から様々な知恵が生まれてくるものですが、今年のえべつ未来市民会議も、行政審議会の各部会での議論も、総合計画についての議論ということで、細かい踏み込んだ意見については、遠慮しながら発言してきたのではないかと思います。そこで、この総合計画がスタートした来年度以降に新たに策定、あるいは改定する個別計画や、すでに見直し作業に入っている計画もあると思いますので、そういった関連する個別計画の策定作業において、えべつ未来市民会議や行政審議会の中でどのような意見があったかということを経験提供して、相応しいものは個別計画に取り入れて実現を図っていくという位置付けにさせていただけるとよいと思います。

○ 佐藤会長

次に、1ページから2ページの7項目について審議したいと思います。

○ 安孫子委員



2の「協働」についての記載の中に、「協働のまちづくり」について用語の解説が必要であると記載されていますが、「協働」という言葉の解説書のようなものはあるのでしょうか。

○ 佐藤会長

第1部会の議論の中で、江別市ならではの「協働」ということについて定義をすべきということで、一般的な「協働」という言葉の解釈だけではなく、今回の江別市の総合計画の中での「協働」の位置付けをきちんと説明しなければ、市民の方々に正確に伝わらないと思われることから、そういった用語の定義が必要だという記載になっています。

○ 押谷委員

素案本体の3ページの「1 計画策定の趣旨」の中の最後の3行に、江別市自治基本条例に則って「協働」が実践されると記載されています。また、もう少し詳細に説明する必要があるということで、同じ3ページの下の用語解説の5番目に「協働」の解説が記載されており、基本的には江別市自治基本条例に基づく「協働」ということです。

○ 安孫子委員

「協働」の精神は分かりますが、「協働」という言葉によって責任が曖昧になってしまうという懸念もあるのでお聞きしました。また、実際にこれまでも様々な場面で「協働」に取り組んできていると思いますが、現実的に今の行政運営の中で、「協働」が上手くいっているからさらに推進するという事なのか、上手くいっていないので重点的に取り組んでいかなければならないという意味でスローガンとして掲げるのかということについても疑問に思っていました。特に異論があるわけではありませんが、「協働」ということをしっかりと捉えておかないと無責任になってしまうということを懸念して発言させていただきました。

○ 湯浅委員

「きょうどう」という言葉に関して、私が知っている限りでは共同作業とか共同募金などの「共同」という字がまず一つあると思います。他にも身近な例では、農業協同組合や漁業協同組合のように、主に同業種の方が一つの目的のために力を合わせて活動する場合に「協同」という字を使っています。そして、今回の総合計画で使っている「協働」という字は、国民の意識が多様化する中で、この10年から20年の間に使われ始めた言葉で、様々な考えを持っている方、年代や性別、障がいの有無、職業など関係なく、知恵や力を寄せ集めるという意味であり、「力」という字を三つ合わせた「協」という字を使っているところに非常に大きな意味があります。時には個人で、時には様々な組織や団体といった垣根も乗り越えて、力を合わせて取り組んでいくという意味です。それと「協働」の「働」の字が従来の字と違います。「人」が「動く」と書きますが、「動く」というのは肉体的に体を動かすという意味もありますが、知恵を使うという意味でもあります。そういう意味で、今回の総合計画で使っている「協働」という字は、この10年から20年の間によく定着してきた言葉ですが、同じ「きょうどう」でも深い意味合いがあります。そのあたりの意味合いのことも用語の定義で伝えられるよ

うにしてはどうでしょうか。一人ひとりの力は小さくても、自分の持っていない他者の長所を認めて、一つの目的のために一緒に力を合わせていこうという意味合いを込めて、「協働」という言葉を使っています。

そのような意味合いがよく出ている取組として、ゆめみ野東町に夢あかりという高齢者福祉施設が一昨年にできて、地元の自治会などと「協働」している事例があります。ゆめみ野地区は比較的新しい地域ですので、子どもたちを中心にした夏祭りはありましたが、最近では高齢者も増えてきており、色々な人たちが一緒になって楽しめるジョイント夏祭りを企画してやっていこうということになりました。新しくできた高齢者福祉施設は、施設の中のホールなどを地域住民の集会のために開放するなど、地域への開放を積極的に行って、地元の自治会などと一緒になってイベントを行っています。そして、地元の老人クラブの方々は、交通安全の黄色い制服を自分たちで揃えて、日ごろから地域の子どもの見守り活動を行っています。イベントの際にたくさん来場する車や通行人の交通整理も行っています。また、ステージで行う催しについても、地元の中学生たちが吹奏楽演奏などに参加しています。まさに子どもから高齢者まで、さらに自治会や高齢者福祉施設などが、企画の段階から組織を越えて力を合わせて開催しています。そのような取組が江別市内の色々な行事で現に行われてきており、「協働」の芽が出ていますから、人が力を合わせて、体だけではなく知恵も動かすという「協働」の意味を分かりやすく伝えていってほしいと思います。

○ 佐藤会長

この行政審議会の答申の中でも、「協働」という言葉が中心になってきていますので、きちんと記述していきたいと思います。

○ 藤本委員

2ページの7のアンケート調査に関する記述の部分について、アンケート手法を工夫することももちろん重要だと思いましたが、調査後にその結果をどのように反映させていくかということにも留意すべきであるということを追記していただきたいと思います。

○ 押谷委員

先ほども発言させていただいたように、えべつ未来市民会議では具体的な提案や要望が数多く出されていましたが、総合計画はこれから10年間の計画であり、社会情勢等によっても大きく変化してくるものですので、それらを具体的な施策に盛り込んでいくのは難しい面もあると思います。そこで、そのような市民の意見や要望を受けながら、しっかりとそれを解決や実現に向けて繋いでいくためのコーディネートができるような組織や場が必要ではないかと思えます。江別には、市内に4つの大学があり、また市民協働に取り組まれている市民活動団体など、様々な主体が存在します。これまでは4つの大学があっても象牙の塔のようで、社会のニーズと合っていなかったという面もあり、なかなか地域との連携が取れていなかった部分もありましたが、最近では文部科学省も

含めて大学側も地域のニーズに合わせた形での教育・研究を行い、地域との連携を取って進めていくという方向性になっています。そういう中で、せっかく様々な特徴を持った4つの大学がありますので、それらが総合的に力を合わせて、それぞれの役割を担っていけば、江別市にとって非常に大きな力になり得るのではないのでしょうか。市民の要望・要請あるいは提案を受けて、それを実際の事業に繋げていくシンクタンクのような機能を持った組織を、市が主体となって江別市の中に設けて、この10年間の総合計画の中で動かしていくということを一言追記できないのでしょうか。4つの大学と市で、現在でも様々な協定などを結んで連携していますし、市民活動団体や商工会議所などの団体との連携もしていますが、なかなか総合的に取り組めていないという実態がありますので、そのような場をつくるということを答申の中に一言追記していただきたいと思います。

#### ○ 白鳥委員

これまでの総合計画では、「市民参加」という言葉をよく使っていました。「参加」というのは、ホスト役が存在して、そこで一緒に活動することです。ホスト役が主で、参加する人は副という関係になります。「協働」の場合は、お互いが働くということで、お互いに主になるということですので、そういった意味で「協働」を打ち出している今回の総合計画は、これまでより進歩したと言えると思います。一方で、先ほど安孫子委員から「協働」は実際に進んでいるのか、というご発言がありました。私もよく質問されますが、「協働」が進んでいるかどうかは、どのように把握できるのでしょうか。例えば、市民に「協働が進んでいると思いますか」と聞いたとしても、おそらく進んでいるのか進んでいないのか分からないと思います。2ページの7に記述してありますが、「協働」のまちづくりの進捗状況を指標として設定してしまうと答えが出てこないかもしれません。ですので、ここでは市民の方々が「協働」という言葉の意味をよく知っているかどうかということをアンケートで把握するとよいのではないのでしょうか。知っているということは「協働」という概念を理解しているということですので、それはつまり様々な人たちと一緒に活動していこうという状況になっているということだと思います。私たち市民活動団体であっても、「協働」が進んでいるかどうかについては、自分たちが関わっている範囲のことしか分からない状況ですので、そういったことを考慮して、適切な指標を設定していただくようお願いしたいと思います。

#### ○ 安孫子委員

押谷委員の意見に関して、私も同様に感じています。計画をつくって進めていきますといったところで、実際にそれをどう具体的に実行していくかという部分が重要ですので、実行していくための組織づくりや、実現に向けた動きができるようにすべきという意見を書き込むことは当然必要だと思います。アクションプランをどうするか、あるいはそれを審議する場、例えば国で言えば経済戦略会議のような、方針を立てて実際に何

をどうしていくかを検討していくような場がないと、立派な計画をつくっても結局10年間で何が実行されたのか分からないという話になってしまいます。どのような表現で答申に記載すべきかは分かりませんが、付帯意見としてそういった実行組織の位置付けが必要だということを述べておいた方がよいと思います。

○ 町村委員

「協働」を否定する意図は全くありませんが、最初のきっかけを誰が起こすのかがよく分からない言葉だと感じていましたので、押谷委員や安孫子委員のご意見のとおりだと思いました。やはり「協働」というのは、きっかけをつくる組織がどこかに存在しなければ成立しないと思いますので、是非とも答申の総論的な部分にそのことについて一言入れておくべきではないかと思いました。

○ 河西委員

第3部会でPDCAサイクルについてのご意見がありましたが、答申意見の1ページから2ページに書かれている内容は、「P（計画）」と「C（評価）」だけで、「D（実行）」と「A（改善）」が抜けています。「D」に関しては、安孫子委員をはじめとして、色々な委員からどのように実行していくかという部分の記述が必要ではないかというご意見がありました。そして、実際にそれを実行した結果をチェックする「C」の部分は、2ページの7に記載があります。そこで、上手くいかなかった場合にそれをどう改善していくかの「A」の部分についても記述しておいた方がよいと思います。「P」の部分に関しては、えべつ未来市民会議からの意見やこの審議会からの意見を個別計画に盛り込んで反映していくということが記載されていますので、あとは「D」と「A」の部分だと思います。

それと1ページの3の産業について、少し内容が分かりにくいと思います。おそらく言いたいことは、これからの産業活性化というのは「連携」や「協働」が不可欠であるということ、2つ目としては、これまで総合計画等では結果が重視されてきましたが、結果だけではなくてプロセスも重視されなければならないということ、そして3つ目として、そうしたプロセスをきちんと生み出していくために、行政が何らかの形でそういった産業間や事業者間の連携が進むような環境整備をしていくことが必要になってくるということだと思いますので、そういった内容を3の文章の中に記載すべきだと思います。

また、「生産行為」という言葉が入っていますが、第1段落で「生産者」という言葉があって、次の第2段落で「生産行為」という言葉を入れてしまうと、この「生産行為」は「生産者の行為」と解釈されかねません。ここでは「経済活動」のことを意味していると思います。「経済活動」ばかりに焦点を当てるのではなくて、その「経済活動」に関わって、高齢者や学生の参加といった新しいコミュニティが創出されることも重要であるということが表現されるべきだと思いますので、ここでは「生産行為」ではなくて「経済活動」という言葉にした方がよいと思います。

それと、第2段落に「生産行為を通じて江別市の中に新たなコミュニティが生まれ」とありますが、これに関しては第2部会での議論の際に、江別市内だけの話ではなくて、市外にももっと売り込んでいかなければならない、また江別市を取り巻く札幌圏の中で、色々な自治体や事業者等との連携も必要だという議論がありましたので、「江別市内外に」という表現にした方がよいと思います。これからの産業活性化の中でブランディングが重要であるという意見も何度か出てきましたが、そのブランディングの対象というのは必ずしも江別市の中だけの話ではありませんので、江別市の外にいる人たちにも情報を発信していくことが必要になります。そういった意味でも「江別市内外」という表現の方が適切だと思います。以上、第2部会に関わる内容に関して意見を述べさせていただきました。

○ 佐藤会長

事務局で修正していただいて、第8回審議会の前に河西部会長に確認していただくことにします。

次に、3ページ以降の答申意見書の各論について何かご意見ありませんか。

○ 湯浅委員

6ページの戦略プロジェクト2Cに対する意見の中で、「働きたい人の部分で、具体的に「若者、女性、高齢者」と記載するよう検討」とありますが、このように具体的に例示するのであれば、「障がい者」についても位置付けるべきだと思います。「働きたい人」とだけ表現する分には拘る必要はありませんが、このように例示するのであれば、是非とも「障がい者」についても記載していただきたいと思います。というのは、先ほど第3部会からの報告でもありましたように、3ページのまちづくり政策「03 福祉・保健・医療」に対する意見の中で、「障がい者の就労への支援」という内容を入れるべきというご意見が出ていますので、それとの整合性を図る必要があると思います。国の動きでも、障害者雇用促進法の中での位置付けがあり、江別市の中でも、酪農学園大学の教授が、障がい者の農業分野での就労に関する研究を行っており、関係する団体など色々な方々が協議会の中で意見交換をして、具体化に向けた検討をしているという動きがあります。また、江別市に高等養護学校を誘致しようという動きもあり、将来高等養護学校が開設されてその卒業生が出るときに備えて、商工関係や農協の方も参加して勉強会を開催しているという具体的な動きもありますので、「働きたい人」を具体的に例示するのであれば、「障がい者」も位置付けた方がよいと思います。

○ 安孫子委員

具体的に例示すると、逆に例示されたもの以外を対象にならないように読み取れてしまいますので、「働きたい人」とだけ表現しておくのが一番良いのではないかと思います。

○ 河西委員

第2部会での議論経過を補足説明させていただきます。このご意見は、「潜在労働力

の掘り出し」に関して、元気な高齢者の方々にもっと活躍してほしいというご意見が出て、であれば具体的に「高齢者」などと記載してはどうかということになりました。ですが、具体的に例示すると、限定的になってしまうなどの問題が起こる可能性がありますので、元の文章に戻して抽象的な表現とし、「働きたい人」すべてが働けるような環境づくりをするという内容の方が、戦略としては相応しいのではないかと思います。

○ 湯浅委員

先ほども申しあげたように、もし具体的に列挙するのであれば、性別や年齢、障がいの有無などに関係なく働けるという表現にすべきということです。これからの社会では、労働力人口も減っていきますし、社会参画のために、一般企業で働けるような様々な訓練を受けるなど、生きる力や自己実現力をつけるということを尊重していく必要があります。ただ、具体的に列挙するとなると、すべての方々を挙げることになってしまい、キリがありませんので、総合計画としてはそこまで具体的に記載しなくてもよいと思います。

○ 佐藤会長

総合計画の中の他の部分の記載の仕方との整合性もありますので、事務局の方で確認した上で記載の仕方を検討してください。

○ 白鳥委員

4 ページの戦略プロジェクト 1 A に対するご意見に関して、特に異論があるわけではありませんが、高齢者のまちづくりへの参加や「協働」ということに関しては、生涯学習という言葉が使われることがよくあります。第 1 部会での議論の際にも申し上げたことですが、生涯学習とすると教育委員会が所管することになり、それによってかなり制限が出てしまうケースがあります。したがって、今回の総合計画では、高齢者の社会参加というのは、本当の意味でのまちづくりへの「協働」の働きかけであるということをしきりと謳っていただきたいと思っています。

○ 佐藤会長

具体的にはどのように記載を追加したら良いでしょうか。事務局にお任せするということにしますか。

○ 押谷委員

白鳥委員からご意見のありました生涯学習のことについては、阿部委員も第 1 部会の中でよくおっしゃっていたことでもあります。江別市でも蒼樹大学など高齢者を対象とした生涯学習の場があって、そういった場に参加する人は多いが、自治会活動にはなかなか参加してもらえないという話がありました。生涯学習だけではなくて、「働く」という意味でまちづくりに参加してもらいたいというご意見でしたので、この部分の記述についてどのような内容にすべきか事務局と相談させていただきたいと思います。

それと、この部分の記述で「65歳から75歳までの間の現役を退いた」という表現がありますが、「65歳から75歳までの間の」という部分は削除した方がよいと思

ます。

#### ○ 事務局

押谷委員からご指摘いただいた部分も含め、事務局でこの答申意見書全体を通して表現を見直しておきます。

生涯学習という分野は、高齢者から若年層、障がい者団体なども含めて相当な幅広さで、その中には江別市内における市民活動団体などもすべて包括されています。そのような、教育員会の生涯学習課が所管業務として全体の統括をしている生涯学習活動という視点で見た場合と、総合計画の中で謳っている「協働」という視点から見た場合で、意味合いが変わってくるということがあり、非常に微妙な部分ですので、その辺りの整理をしっかりとしていきたいと考えています。また「協働」に関して、現在の市役所の業務分担では生活環境部が自治会や市民活動の関係について特化して所管していますが、本来の行政のあり方からすると、市民参加と市民協働はトータルで考えていかなければならない分野です。そして今、市民参加条例を制定するという方向性で準備をはじめているところですが、もう一方で市民協働条例の制定も課題となっており、これらをバラバラにつくる必要はないのではないかと考えています。江別市における市民参加・市民協働のための条例と位置付けて対応していくべきで、市民協働を進めていくにあたってはその条例をどうやって制定するのか、そして条例の制定に向けて市民の方にどのように参加していただくかということが、今後1～2年の間で非常に重要な課題となっており、これから準備を始めていきたいと考えています。

#### ○ 佐藤会長

しっかりと江別市における「協働」の定義をしていただくということも含めて、条例の検討をよろしくお願いします。

それでは、これまでに各委員からいただいたご意見を受けて事務局で修正した内容については、発言された委員にフィードバックして確認するようお願いいたします。

### (4) 「将来都市像」について

#### ○ 佐藤会長

将来都市像について意見を募集した結果は、事務局から説明があったとおりですが、各委員からどの候補がよいと思うかなど、何かご意見ありますでしょうか。

#### ○ 押谷委員

個人の主観の問題にもなりますので、どの候補が相応しいかというのは難しいところですが、いずれの候補にも関係することとして一言申し上げておきます。「まち」や「えべつ」という言葉を平仮名で表現していますが、将来都市像だけでなく総合計画全体を通して、これらの表現をどうすべきか第1部会で若干意見がありました。個人的には「まち」については平仮名でもよいと思いますが、「えべつ」については平仮名にする根拠が必要かと思えます。平仮名と漢字のどちらにすべきという意見ではありませんが、問

題提起として発言させていただきました。

○ 湯浅委員

この5つの候補はあくまでも候補であって、最終的に将来都市像を確定するにあたっては、これらの候補の字句を変更するというのも可能でしょうか。

○ 事務局

可能です。候補に挙げた内容を変更することで、より良いものになるのではないかとご意見があれば伺いたと思います。

○ 湯浅委員

候補3の「都市」を削除して、「人と自然が調和する」あるいは「人・自然が調和する」としてはどうでしょうか。それと、候補2にあるように「未来」という言葉がどこかに入るとさらに良いと思います。

○ 蛭名委員

この将来都市像というのは、10年後の江別市を見たときに、このように見えると良い、ということを表すものということだと思えますが、そうであれば候補2だと10年よりさらに先のことを表現しているように感じます。候補3については湯浅委員と同感で、「都市」と「調和するまち」の「まち」が重複しているように思います。

○ 河西委員

今回の5つの候補の内容を分析すると、候補1・候補4・候補5に関しては、市民自治の一番の主役である市民がどのような状態になっているか、ということ表現しています。それに対して、候補3は将来の地域のビジョンを表現しています。そして、候補2に関しては、「みんなでつくる」という表現で、まちづくりのプロセスを示しています。このように分析した結果を踏まえて、今回の総合計画の一番のポイントは何かということ考えたときに、「協働」がキーワードになっていると思いますので、50歳代の方のご意見にあるとおり「協働」という考えを明確にしている候補2が、今回の総合計画の中身を示す将来都市像としては的確なのではないかと思いました。

○ 安孫子委員

この将来都市像はいつまでに決定することになるのでしょうか。

○ 事務局

次回の第8回の審議会では確定させたいと考えています。

○ 安孫子委員

答申意見書の2ページの6で、ブランド化が今の江別市で欠けているということ記載していますので、それであれば何を目標しているのかについて、もう少し具体的に表現されていてもよいのではないかと思います。5つの候補が悪いという意味ではありませんが、せつかくであればもう少しインパクトのある表現でもよいのではないかと思います。「協働」という話も出ましたが、「協働」と漢字で表現するのではなく、「みんなで一緒にやりましょう」というように具体性を込めた、スローガンのような表現も入っていた方がよいのではないかと思います。



○ 白鳥委員

キャッチフレーズのようなものは、あまり長いと口に出してもらえません。それと、語呂がよいと口に出しやすいと思います。候補2は語呂がよいですが、少し長いので「未来につながる」の「につながる」を省略して、「みんなでつくる 未来 えべつ」というように少し短くするとよいと思います。「みんなでつくる」が平仮名で、「未来」が漢字で、「えべつ」がまた平仮名になって、バランスもよいと思いますし、「未来えべつ」を一つの語句にしてしまうという方法もあると思います。個人的には「みんなでつくる 未来えべつ」を候補2の補正案として提示したいと思います。

○ 事務局

いただいたご意見を踏まえて、佐藤会長とも相談させていただいた上で、次回の審議会で確定させていただきたいと思います。

(5) その他

- ・ 第8回：8月19日（月）18：30～ 江別市民会館 21号室にて
- ・ 答申書の手交：8月21日（水）18：30～ 本庁舎2階 市長公室にて

■閉会